第14講　西洋近代思想の誕生

1　ルネサンス〔文芸復興〕

14世紀以降のルネサンス〔文芸復興〕を支えた**人文主義〔人間中心主義〕**とは，古代ギリシャ・ローマの文化を学ぶことによって，**人間性を回復**することをめざした思想･運動である。**中世ヨーロッパの「神」中心の秩序に代わる,新たな「人間」中心の秩序が求められ**，人々は古典の中にそれを見いだそうとした。古典研究は，単に知識や教養を深めるのではなく，現状を批判し克服していく方法の探究であった。

①ルネサンス期の文芸

A　**ダンテ**（1265～1321年，**イタリア**）

叙事詩『**神曲**（しんきょく）』を著し，ルネサンスの先駆（せんく）となる。

B　**ペトラルカ**（1304～74年，**イタリア**）

叙事詩『**カンツォニエーレ**』で恋愛感情を表現した。

C　**ボッカチオ**（1313～75年，**イタリア**）

小説『**デカメロン**』で，聖俗を問わず，ほぼ全ての階級・職業の人々が，人間的な欲望に動かされながら生きる姿を大胆かつ滑稽（こっけい）に描き出した。

※欲望を肯定（こうてい）し，カトリック教会や聖職者を批判。

②ルネサンス期の思想

A　**ピコ＝デラ＝ミランドラ**（1463～94年，**イタリア**）

『**人間の尊厳について**』で，人間は自分の価値を自ら選ぶことができる名誉ある存在であり,**自由意志**によって創造的に生きることができると説いた。

B　**エラスムス**（1466～1536年，**オランダ**）

『**愚神礼讃**（ぐしんらいさん）〔**痴**（ち）**愚神礼讃**〕』で，カトリック教会の腐敗や堕落，神学者の聖書解釈の愚劣さを痛烈に風刺して，宗教改革に影響を与えたとされる。また，『自由意志論』を著し，人間の自由意志の存在も唱えた。

※彼は，ラテン語訳の聖書の誤りを正すため,『新約聖書』のギリシャ語原典を新たに校訂・翻訳した。

C　**トマス＝モア**（1478 ～ 1535 年，**イギリス**）

15 世紀末のイギリスでは，第一次囲い込み運動〔エンクロージャー〕が起き，領主や地主により土地を奪われた農民があふれて社会不安の一因となった。彼は，このような富の偏在と腐敗の原因は私有財産制にあるとし，「どこにもない理想郷」という意味で『**ユートピア**』を著した。

※平等社会における自由な生活を具体的に示し，当時の社会を批判した。

D　**マキャヴェリ**（1469 ～ 1527 年，**イタリア**）

当時のイタリア分裂抗争の原因は，外国の干渉と国内の腐敗・堕落にあるとし，政治は現実を直視して行われなくてはならないと主張，侵略の危機にさらされている国家の状況克服を訴えた。

※著書『**君主論**』では，現実に対応できる君主は宗教的権威よりも軍事力に比重を置き，場合によっては非道徳的手段も許されるとし，これを「獅子の勇猛さと狐（きつね）の狡猾（こうかつ）さ」と表現した。このような考えは，後に**権謀術数（けんぼうじゅっすう）主義**〔**マキャヴェリズム**〕と呼ばれ，政治を宗教・道徳から分離させた点において，近代政治学の基礎となっている。

③ルネサンス期の美術

A　**ボッティチェリ**（1444 ～ 1510 年，**イタリア**）

絵画『**春**〔**プリマヴェラ**〕』『**ヴィーナスの誕生**』など。

B　**ラファエロ**（1483 ～ 1520 年，**イタリア**）

絵画『**アテネの学堂**』，さまざまな聖母子像など。

C　**レオナルド＝ダ＝ヴィンチ**（1452 ～ 1519 年，**イタリア**）→**万能人**〔**普遍（ふへん）人**〕の典型。**遠近法**など斬新（ざんしん）な技法による絵画（『**最後の晩餐（ばんさん）**』『**モナ＝リザ**』など）を制作したり，軍事・土木技術や都市計画に携（たずさ）わったりした。

※天文学・物理学・解剖学など，さまざまな分野にわたる観察結果やアイデアなどを記した膨大な手稿（しゅこう）を残した。

D　**ミケランジェロ**（1475 ～ 1564 年，**イタリア**）

絵画『最後の審判』，彫刻『ダヴィデ』など。

２　宗教改革と反宗教改革

①ルター（1483 ～ 1546 年）の宗教改革

A　人物

ドイツで鉱夫の親方の子として生まれる。22 歳の時，落雷に襲われ死への恐怖を感じたことから大学を去り，修道生活に入る。29 歳でヴィッテンベルク大学の神学教授となり，34 歳の時，**カトリック教会の贖宥状**（しょくゆうじょう）**〔免罪符〕政策を批判**して**宗教改革**を開始。教会から破門され，神聖ローマ帝国から追放となるが，教皇や皇帝と対立する有力諸侯と市民の庇護（ひご）を受けて改革を続け，63 歳で死んだ。

※ルターは，彼の説に影響を受けたミュンツァーが指導するドイツ農民戦争に同情的であったが，それが革命運動化・暴徒化したことを批判し，のちに弾圧側に回った。

※エラスムスの『自由意志論』に対し，『**奴隷意志論**』の著書がある。

B　改革の開始と継続

1517 年，ルターは『**95 カ条の論題〔意見書〕**』を発表し，カトリック教会を批判したことから，教皇レオ 10 世に破門され，神聖ローマ皇帝カール５世に帝国追放処分を受けたが，庇護者を得て改革を続けた。

C　主張

あ　**信仰義認説・福音主義→**パウロの教えへの回帰

著書『**キリスト者の自由**』によれば，神の前では全てのキリスト者は平等であり，教会の権威や教会が勧める善行（ぜんこう）・功徳（くどく）を積むことではなく，ひたすら信仰することで直接神と向き合うべきと説いた。

い　**聖書中心主義**

神の言葉を伝える聖書のみが，キリスト教信仰の拠りどころであるとした。

※聖書を一般の人も読めるように，ラテン語から**ドイツ語に翻訳**（ほんやく）。

う　**万人司祭**（ばんにんしさい）**主義**

キリスト者は，皆等しく神の前に立つ者であり，その観点からは世俗の者も司祭である。誰もが聖書を通して直接神と関わることができるのだから，特権的身分の聖職者は不要であるとした。

え　**職業召命**（しょうめい）**観**

世俗の職業は卑しく聖職は高貴である，という従来の考えを否定し，職業は全て神から与えられた神聖なものであり貴賤（きせん）などない，とした。

D　支持者たち

従来のカトリック（＝普遍的な教え）に対し，ルターの説を支持する人々を**プロテスタント**（＝抗議する者）といい，この新しい思想を**プロテスタンティズム**と呼ぶ。

※カトリック〔旧教〕の神父・司祭と違い，プロテスタント〔新教〕の牧師は特別な身分ではなく，世俗の職業との兼任や結婚も認められる。

②カルヴァン（1509 〜 64 年）の宗教改革

A　人物

フランスの法律家の子として生まれる。ルターの信仰義認説・福音主義の影響を受けたためカトリック教会から異端視され，大学卒業後に**スイス**に亡命。**ジュネーヴ**で禁欲的な神権政治を主導するなど，独自の**宗教改革**を進めた。55 歳で死去。主著『**キリスト教綱要**（こうよう）』。

B　主張

あ　**予定説**

神は個別の人間の救済の可否（かひ）についてあらかじめ決定しており，人間はその決定を変更することはできない，と説いた。

い　ルターの職業召命観の継承・発展

人が自らの救済を確信するためには，各人が聖書の教えに従い，神への奉仕として与えられた世俗の職業に禁欲的に励むべきであるとした。

※ルネサンス期に理想とされた「万能人〔普遍人〕」に対し，**「職業人〔専門人〕」**という新たな人間像を生む。

う　**天職**

自らの職業に励み，富を増大させることは正当であり，蓄財（ちくざい）を還元して社会を改善しようと努力することが大切である，と考えた。

※職業は天の神から与えられた使命であり，あらゆる個人は，身分とは関係なく神の前で平等であると説いた。

え　改革の波及

カルヴァンの思想は，西ヨーロッパの商工業者の間に広く普及し，16 世紀後半には，フランス・オランダ・イングランド・スコットランドに広がり，ルター派と並ぶ一大勢力となった。

※カルヴァン派は，フランスではユグノー，オランダではゴイセン，**イングランド**では**ピューリタン〔清教徒〕**，スコットランドではプレスビテリアンと呼ばれた。

お　後世への影響

20 世紀前後の**ドイツの社会学者マックス＝ウェーバー**は，世俗の労働を卑（いや）しいものと考えるカトリックに対し，利潤や利子まで積極的に認めるプロテスタントの職業召命観が経済発展を促進した，と『**プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神**』で分析した。

③反宗教改革〔対抗宗教改革〕

　プロテスタント〔新教〕の進展に焦りを感じたカトリック〔旧教〕は，教義の明確化と内部革新を通じて勢力回復をめざした。

A　トリエントの公会議（イタリア，1545 ～ 63 年）

ローマ教皇の権威を再確認するとともに，教会の腐敗防止をはかる。

※禁書目録をつくり，宗教裁判を強化して思想統制を行う。

B　**イエズス会**の結成（1534 年）

イグナティウス＝ロヨラや**フランシスコ＝ザビエル**が結成。イエズス会は，プロテスタントやイスラームへの対抗心から，南ヨーロッパや海外へ宣教活動を行い，カトリック勢力の回復に貢献した。

※ザビエルは 1549 年に鹿児島に上陸して日本にキリスト教を伝えた。

※他に，フランシスコ会やドミニコ会なども活躍した。

３　モラリスト

宗教改革以降，**フランス**に**モラリスト**と呼ばれる思想家が現れた。当時は各地でカトリック〔旧教〕とプロテスタント〔新教〕の対立から**宗教戦争**が起き，そうした惨禍をもたらす宗教のあり方や人間の生き方に対し，冷静な批判が必要になっていた。彼らは，柔軟で自由な見地から人間の姿を見つめて生き方を思索し，随筆形式の手記を残した。

※モラリストは，ルネサンス･宗教改革を経て，価値観の対立で混乱するヨーロッパにあって，人間を深く観察し，その能力や人間性を謙虚に捉え，生き方を探究した思想家。彼らの手記には格言〔マキシム〕や警句〔アフォリズム〕が散りばめられている。

①モンテーニュ（1533～92年）

A　人物

フランス貴族の子として生まれる。法務官僚として勤務後，38歳で退職して故郷のボルドーに戻り，居城で思索・瞑想と『**随想録**（ずいそうろく）〔**エセー**〕』を執筆する日々を送った。のち市長を務め，宗教戦争（＝ユグノー戦争）の鎮圧にもカトリックの立場から尽力した。59歳で死去。

B　主張

あ　**「ク＝セ＝ジュ〔私は何を知るか〕」→懐疑**（かいぎ）の精神をもち自己を見つめる

人間の理性は不完全であり，そのままでは絶対的真理を認識することはできないため，常に独断や偏見を控え，謙虚な態度で思索を深めるべきであるとした。

※「すでに真理は見いだされた」とする独断論や，「どうせ真理は知り得ない」と決めつける極端な懐疑論の両者を批判し，中庸（ちゅうよう）の立場をとる。

い　**寛容の精神**

宗教戦争の調停にも心を砕き，他者に対する**寛容さ**を重視した。

②パスカル（1623 ～ 62 年）

A　人物

フランス貴族の子として生まれ，３歳で母を失う。生来の虚弱体質であったが，幼少時から物理学と数学に優れた才能を発揮。大陸合理論のデカルトとも交流し，のちに「パスカルの原理」「パスカルの定理」などを発表した。31 歳の時，「決定的回心」を経験し，信仰生活に入る。39 歳で死去後，無神論者に対し書き留められていた断片が，遺稿集『**瞑想録**（めいそうろく）〔**パンセ**〕』として出版された。

B　主張

あ　**「人間は考える葦（あし）である」**

『瞑想録〔パンセ〕』の中で，「この宇宙の沈黙は私を震撼（しんかん）させる」と語り，広大な宇宙の中で，自分がどこから来てどこへ向かうのか知らないまま，偶然存在していることへの驚きと畏（おそ）れを表現した。

※また，「人間はひと茎（くき）の葦にすぎない。自然の中で最も弱いものである。だが，それは**考える葦**である」「空間によって宇宙は私を包み，一つの点のように飲み込む。考えることによって，私は宇宙を包む」と語り，広大な宇宙に対し，人間は孤独で無力な**悲惨（ひさん）さ**をもつ存在であるが，思考するところに**偉大さ**をもつとした。

い　**中間者**

人間は，悲惨さと偉大さの中間をさまよう存在とし，自らの悲惨さを認識しうる自覚的・反省的思考に人間の尊厳と生き方を見いだした。

※人々が学問や社交，娯楽や賭け事などの**「気晴らし」**をすることは，死や孤独，不安をもつ自己の悲惨さから一時的に目を逸らしてくれる。しかし，最後には絶望や悲哀に落ち込んでしまうと考え，その悲惨さからの救いとして，カトリック信仰を説いた。

う　**繊細な精神**

人間のあり方や事柄の本質を捉えるためには，推理や論証を行う能力（＝**幾何学（きかがく）的精神**）だけでなく，柔軟に直感で物事を把握する能力（＝繊細な精神）が必要であるとした。

※直感を重視したパスカルは，神は理論的に把握するものではなく，心情により信じるものと考えていた。また，一時期交流したデカルトに対しては，幾何学的精神はあっても繊細な精神に欠ける人物だと批判した。

第 14 講　倫理確認テスト

1　14 世紀，ルネサンスが始まった国を現在の国名で答えよ。
①　イタリア　　②　ドイツ　　③　イギリス　　④　フランス

2　近代小説の先駆となった『デカメロン』を発表したイタリア人とは？
①　ダンテ　　②　ペトラルカ　　③　ボッカチオ　　④　マキァヴェリ

3　『愚神礼讃』『自由意志論』を著し，『奴隷意志論』を著したドイツのルターと論争したオランダ人とは？
①　エラスムス　　②　トマス＝モア　　③　ラファエロ　　④　カルヴァン

4　信仰義認説・福音主義・聖書中心主義・万人司祭主義・職業召命観というキーワードが全て当てはまる人物とは？
①　パウロ　　②　トマス＝アクィナス　　③　ルター　　④　モンテーニュ

5　カルヴァンが，禁欲的な神権政治を主導するなど宗教改革を進めた都市はどこか？
①　フィレンツェ　　②　ジュネーヴ　　③　ロンドン　　④　パリ

6　『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を著し，資本主義の発展を分析したドイツの社会学者とは？
①　ミケランジェロ　　②　マックス＝ウェーバー
③　ルソー　　④　フランクル

7　16 世紀，反宗教改革〔対抗宗教改革〕を進めた勢力とは？
①　ユダヤ教会　　②　カトリック教会
③　東方正教会　　④　プロテスタント

8　モンテーニュやパスカルなどのモラリストは，どの国に現れたか？
①　ギリシャ　　②　イタリア　　③　イギリス　　④　フランス

9　モンテーニュの言葉を以下から選べ。

①　「私は知らないことを知っている」

②　「獅子の勇猛さと狐の狡猾さ」

③　「ク＝セ＝ジュ〔私は何を知るか〕」

④　「人間は考える葦である」

10　パスカルの遺稿集を以下から選べ。

①　『人間の尊厳について』　②　『キリスト者の自由』

③　『随想録〔エセー〕』　④　『瞑想録〔パンセ〕』

解答

1	①	2	③	3	①	4	③	5	②
6	②	7	②	8	④	9	③	10	④